

景観学習 和賀西中学校(1回目)

【日時】平成21年12月11日(金) 13:40~14:30

【会場】和賀西中学校

参加者：和賀西中学校1年生 42名

1. 校長先生のあいさつ

こんにちは。マスクをしてお話するということですが、ちょっと担任の先生から聞いたら、景観というイメージをちょっと間違えて捉えていた生徒が何名かいたようです。

今年度あるいは来年度に北上市の景観条例というのが施行されて、本格的に来年度からスタートするという事です。そのなかで、小学校・中学校の生徒に景観まちづくり学習を進めるということで、中学校では和賀西中学校の生徒に景観学習を進めていきたいということで、お話を伺う今日の日です。そして実際にお話を頂いたなかで、皆さんにフィールドワークというカメラ等で取材をして、2回目にはまちづくりや景観について学んで、お互いに発表し合うという流れの中で進める景観学習だそうです。

先生もよくわからないまま皆さんにお話しているわけですので、一緒になって学習を進めながら、学習しながら、この学習を実のあるものにしていきたいという風に思います。これから北原先生からたくさん専門的な立場でお話を頂いて、そして次のフィールドワークに活かしていきたいという風に思いますので、真剣に学習に臨んでほしいと思います。よろしくお祈りします。



2. 「景観教室」

弘前大学教育学部教授 北原啓司氏

青森県にありますが弘前大学からきました北原といいます。2年ぐらい前から僕は北上市役所の方々とお仕事でお付き合いしていて、本当に北上には何回も来ています。

今日は僕がお話をするということで、お聞きしたら今日はインフルエンザで休んだ人もいっぱいいるということです。僕がこっちでしゃべっていて、みんなマスクかけているというのも不思議な景観で、痛々しいんですけどもがんばってください。

今日のお話は、大体50分ぐらいこの時間を使って、景観をどんな風に考えるかというお話と、次回までにみんなに好きな写真を撮ってもらいたいので、その写真を撮ってもらうためのガイドみたいなお話をします。

○景観法って知ってますか？

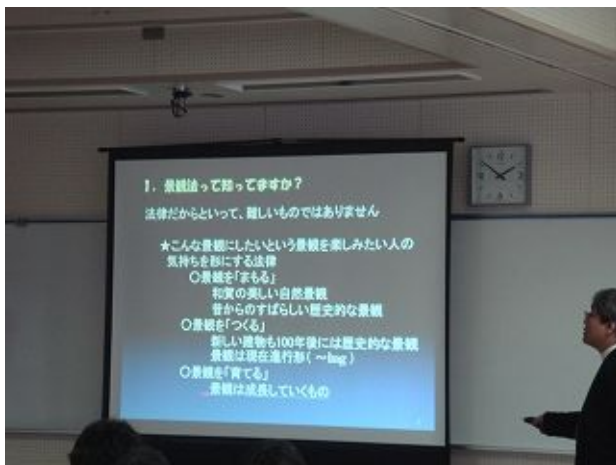
今、校長先生が景観条例というお話をされました。実はみんなが知らない間に、僕も知らない間になんですが、小泉純一郎が総理大臣のころです。景観の法律が日本に初めてできました。景観法といいます。法律だからといってそんなに難しいものじゃない。今日は2枚ぐらい使って景観法のお話をします。実は僕は黒岩小学校でも景観教室をしているんですけども、小学生に法律の話はしません。でも中学生、といってもさっきまで僕が会っていたのは黒岩小学校の6年生ですから君達と1歳しか変わらないんですが、でもやっぱり中学生なんでちょっと違う話をしとあげようと思います。

法律というのは、法律を守らない場合には罰があります。例えば自動車を運転していてスピード違反をしたら罰金を払います。あるいは、悪い事をしたら捕まってしまうと刑務所に行く人もいます。景観って、景色であの景色おかしいからといって捕まえることができるのでしょうか。捕まえるという話とはちょっと違うかもしれません。そういう犯罪ではあ

りません。でも、こういう風なまちでは例えば高さ30メートルを超える建物を建てちゃいけませんよと決めているときに、30メートルを超える建物を造ろうと思う人がいたら、市役所に持って行って「これを造りたいんです。」と言ったら「だめです。」と言われます。それが法律です。それを無視してもし建ててしまった人がいたら、「壊してください。」と言われます。お金がもったいない話ですからそんなことはしませんが、この法律ができた事によって実は景観は少し厳しくみんなに対してお話ができるようになりました。

それまでは法律がなかったので、この桜並木をしっかり大切に守るために、この前には建物を造らない方がいいですねとか、パチンコ屋さんの看板が派手だからあんまり変な色を使わない方がいいですねということは書いてあるんですが、守らなくてもいい、守らなくても怒られませんでした。罰がない。これからはこの法律がありますから、そういうことは少しやれます。

私は景観の法律というのは、がんじがらめにみんなに何々しなきゃだめという法律ではなくて、こんな景観にしたいという景観を楽しみたい人の気持ちを形にする法律だという風に思っています。法律というと、この法律を守らなきゃいけないとってすごく厳しいルールに聞こえるかもしれませんが。景観の法律ができる時には、そんな法律になっちゃいけないと、だって景観というのは楽しく美しい、楽しむものだ、つくっていくものであって、何々しちゃいけないじゃなくて、こんな景観どうでしょうかとつくり出していく、難しい言葉で言うとクリエイティブな創造する法律ですから、規制するんじゃなくて、こんな景観を楽しみたいなど気持ちを形にする法律としてできたんです。



○景観の3つの考え方

景観には3つの考え方があります。

1つ、景観を「まもる」。この和賀の美しい自然景観、あるいは北上の古い建物とかそういったものをまもっていこうという景観のまず1つ、楽しみ方。

2つ目、景観を「つくる」。景観は決して過去だけじゃありません。皆さんのうちだって景観の一部です。「うち、今度建て替えるんだ。」とか「近くに最近コンビニができた。」とかこれも全部景観ですから、景観はこういう自然景観とか歴史的な景観だけじゃなくて、今まさにつくっているものも、新しい建物だって100年経ったら歴史的な景観になるわけです。今私達は、たかだか100数十年前の江戸時代の建物をすごいと思っています。でも今から100年後、もちろん皆さんも含めて、僕も含めて、さすがに生きていないであろう100年後ですね、ぼくのひ孫ぐらいが活着ているかもしれない、皆さんの孫ぐらいが活着ている頃、その時には今のこの建物だって、明日新しくできるビルだって、歴史的な建物です。だから今つくる人達だって、いつかは歴史的な建物になるんだということを意識してつくらないと。古い建物と違うからじゃなくて、今つくるものも全部残ります。英語で現在進行形というのは中学校1年生でもう習っちゃったでしょうから、もしかしたらわからないかもしれない。でもこの「~ing」、古い過去じゃなくて景観にもつくということです。

3つ目、最後「育てる」です。「まもる」というのはね、「この美しい景観を壊さないようにしよう。」「この古い建物を絶対壊さないようにしよう。」「平泉の中尊寺、あれを絶対壊さないようにしよう。」、これが「まもる」です。

「つくる」は今言ったように、今からつくることです。ところが、景観のもう1つ、「まもる」のはその次の人達がまもっていく。「つくる」というのは新しく建築物をつくる人達がつくっていく。「育てる」というものもあります。「育てる」はただまもるだけではありません。新しい時代に合うようにして、子供を育てるみたいにして育てていきます。

だって景観というのは動いているものです。成長していくものです。だから皆さんが、皆さんの家族が、皆さんの友達と一緒に景観を育てるという役目もあります。

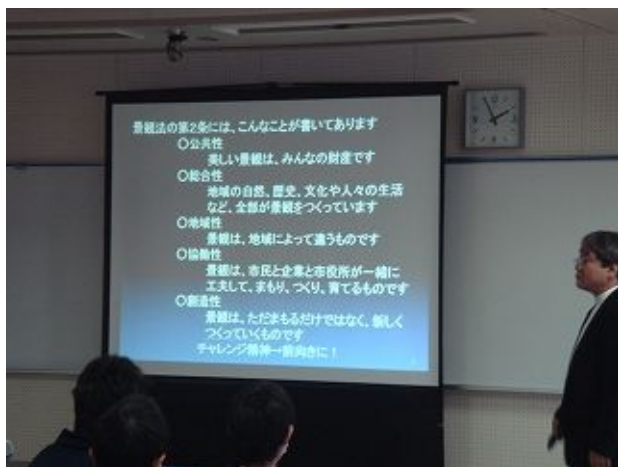
この3つの中で、皆さんが一番近いとすれば、こっちが一番近いかもしれません。家の周りで花を育

てることだって景観を育てます。皆さんなかなか景観をつくるのは今の状況ではちょっと無理かもしれません。将来大工さんになったり、建設会社に入ったりして景観をつくる仕事をするかもしれません。橋をつくったり、道路をつくったり、そういうのが景観を「つくる」といいます。今みんなができるのだったら、ちょっと家の窓を開けて鉢植えを置いたりだとか、学校の花壇を少し花をきれいにしてあげると、景観を「育てる」になります。

先生は「まち育て」という言葉をつくりました。「まちづくり」という言葉を聞いたことあると思います。「まちづくり」というと皆さん参加できるかという、やっぱり「まちづくり」をするのは、市長さんだったり、建設会社の人だったり、でもまち育てるという話だったら、皆さんだって、子供だって大人だってみんなできます。今日は景観を「育てる」ということを少し言いながら、皆さんに景観の勉強をしてもらいます。

○景観法第2条には、こんなことが書いてあります

せつぱくなくて、一番難しい話、景観法第2条に書いてあることを、少し中学生用にお話しします。法律にいったいどんな事書いていたんだろう。法律の文章覚えても仕方がないから、この日本でできた景観の法律にどんな事が書いてあるかお話しします。



1つ目、「公共」という言葉を聞いたことあると思います。

景観はみんなの財産です。だから公共性です。ある人が育てた木だって、別に市役所の土地の木じゃなくても、みんなの財産です。これが1つ目に書いてあります。

2つ目、景観は見て「あ、あその木美しいな。」とか「あその建物かっこいいや。」という、そんな話だけじゃないんです。

自然も歴史も文化も生活も全部入っています。一生懸命働いている人の姿も景観です。農家のおじいちゃんが一生懸命田植えをしている姿も美しい景観です。田んぼが美しいんじゃないで、田んぼで田植えをしている人の姿も美しいし、そこからとれる米が、9月ぐらいにいっぱい稲が実っている姿も美しい景観です。商店街もそうです。

どんなにかっこいいお店があっても、その商店街の人が一生懸命働いてお店にお客さんが来てないと、それはあまりいい景観じゃありません。空っぽの建物では仕方ないです。流行ってないとおもしろくないです。だから自然も歴史も文化も生活も含めて、総合的なものでありますという風に書いてあります。ただどう見えるかという話ではありません。

3つ目、「地域性」。

景観は地域によって違います。同じ北上でも、和賀と江釣子でも違います。弘前と北上もまた違います。ただ弘前と北上の共通点は、北上の人が言うには、日本3大桜の名所というのがあるって、この3大何とかがというのは、その地域の人が思い込んでいるので、今ひとつよくわかりませんが、でも3大桜というのがあるって、3大桜は弘前と秋田県の角館という所と、そしてこの北上だそうです。だからあの展勝地の桜と弘前城の桜は共通しています。けども同じ桜でも全然咲きかたが違います。展勝地の景観というのは、あの川沿いのところのずっと並んでいる桜です。弘前城の桜は、弘前城という敷地の中にわぁっと咲いている桜です。地域によって景観は違います。九州、沖縄、そして北海道、全部景色は違いますが、そういう地域性というものです。だから東京で「日本の景観をこういう風にしましょう。」と言われてたって無理です。だからおもしろいんです。ここはこの景観です。

4番、「協働性」。

最近この「協働」という言葉がよく出ます。みんな「きょうどう」という漢字だと、「同」という漢字だとか、あるいは協力の協じゃなくて「共」という別の漢字を使うこともあります。「協働性」、一緒に働く、何を働くのでしょうか。景観は、住んでいる人と会社と市役所と一緒に工夫して、さっき言った、まもって、つくり、育てる、一緒にやりましょうと、景観は1人でできるものではない、これが協働性です。

次、「創造性」、つくっていこう。景観はただまもるだけではなくて、新しくつくっていくものです。

だからこの5つなんです。

もっと難しく書いてありますよ、法律は。これは今日、中学生や小学生にわかるようにと思って書いた話です。みんなのものだということ。いろんなものが全部関係しているよということ。そして地域によって全然ちがうよということ。景観はいろんな人達が関係してつくっているという話。最後はまもるだけじゃなくて、つくっていこうということ。今みんなが頑張るとつくと、30年、40年後には、過去のいいものになるわけです。こういう風な話をした上で、もう少しわかりやすい話で、難しいのはここまで。ここから違う話をします。

○「景観（けいかん）」ってなんだろう？

先生は時々、小学生たちに景観を教えています。小学校5年生や6年生だって、中学生だって、いや大人だって、同じことを教えなきゃいけないと思うんです。景観は難しいものではありません。小学生にもわかるものです。大人に教えることと同じことを僕は教えます。

実は北上市で僕は「景観人講座」という、今度はお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん達に教えています。その時作ったスライドとまったく同じものを今日は見せます。小学校6年生にも見せました。70歳のおじいちゃんにも見せます。でも僕は皆さんにも見せます。ちょっと言葉が違うぐらいで教えることは一緒だからです。ですから今日は、黒岩小学校に見せたやつとちょっと言葉だけを変えて、でもあるものは全く同じスライドで見せていきます。

さっき景観を勘違いしている人がいるかもしれないと言いました。景観て何でしょう。景観の「景」という字は誰でもわかっています。「景色」「風景」の「景」です。じゃあ景観の「観」て何でしょう。辞書で調べると「みる」と書いてあります。景観は「景色」を「みること」でしょうか。ところが僕はこの言葉を見た時に、さっき黒岩小学校のみんなにも言ったんですけど、「みる」ということだったら、こんな面倒くさい漢字使わなくて、これでいいです。確かにこの漢字は「見」という漢字の左側にこのつくりがあります。景観をみるんだったら、「景見」でいいんです。発見の「見」です。でもなぜこの漢字になっているのか。この漢字にはどんな意味があるんだろう。

1. 「景観（けいかん）」ってなんだろう？

景観（けいかん）

景：景色（けしき）、風景（ふうけい）

観：みること

★でも、どうして、「見る」という漢字を使わないのでしょうか。

高校生、大学生になって、社会人になってきたりすると、この「観」を違う意味でよく使います。この言葉は哲学で出てきます。自分が考えること、相手が考えること、みんなが考えること、主観とか客観と言って、この「観」は決して見ることではなくて、頭が入ってきます。でもそれを小学生に言っても仕方がないので、僕はこういう風に考えます。どうしてこの漢字を使わないのかなと。

○観る（みる）

「観る」って何なんだろう。それを皆さんにお話しします。この「観る」というのはあの「見る」という字と違って、きっとこんな事だろうと思います。

「見て、ちょっと考えてみる」「見て、ふしぎだなあ、おかしいなあと思う」「見て、好きだなあと思う」「見て、ちょっといやだなあと思う」「見て、もっと見たいくなる」。全て共通しているのは、「見て」の後ろに何かがあるところです。

見て考える。ただ見るだけだったら、目の視神経だけを使います。ただカメラを写すのと一緒です。「見て」の「、」の後ろにある、これがこの「観る」なんです。

★観る（みる）

- 見て、ちょっと考えてみる
- 見て、ふしぎだなあと思う
- 見て、好きだなあと思う
- 見て、ちょっといやだなあと思う
- 見て、もっと見たいくなる

→それが「観る」

どういえば「観察」ということばもあったわ

さっきの黒岩小学校の子供たちに、この間写真を撮ってもらいました。1時間まちを歩きました。1人で600枚も撮られてしまいました。その60

0枚撮られた写真を見ました。彼らタイトルをつけました。「ふしぎな景観、好きな景観、いやな景観」というものもありましたけど、こういうものもありました。「直したくなる景観」。それから「不気味な景観」。それから「おかしい景観」。さまざまな言葉をみんな出してくれました。

皆さんもその「見て」の後ろのこの言葉を、僕はたまたま5つ挙げましたが、ただ見ただけでも、同じ景色を見ても、皆さん、ここに30何人いますけれども、みんなちがっていいんです。同じ景色を見ても、同じ山の景色を見ても、ある人はわぁっと思ったり、ある人は全く気付きません。

弘前は、子供たちは、岩木山という大きな山を毎日見ている人達が多いので、岩木山みたいな山を見ると感動します。あるいは、東京の大学に行っている子供達が弘前に帰ってきて、バスで帰ってきて、峠をトンネルで越えて、弘前のまちに帰ってきた瞬間に、向こう側に岩木山が見えたら、涙する子っています。先生は弘前生まれじゃありません。弘前に住んで15年になります、住んで5年目ぐらい、出張で帰ってきて、トンネルすぎたら何となくほっとしました、岩木山を見たら。

そういうのって弘前で岩木山を毎日見ているから感じるんであって、観光客は見たって別に涙は出ません。北上の人だって、いやこの和賀の人だって、いつも見ている景観で、他の人が見たって何にも思わないけど、どうしても懐かしい景観とか色々あるかもしれません。そういうのってとても大事なんです。それは人によって違います。僕らは岩木山を見て感動するし、こちらの人はそうじゃない、盛岡の人は岩手山見えています。色々みんな違うんです。

だからこの「観る」は人によって違っていいということなんです。だからこの「見る」にしなかった。この「見る」は、みんな同じものが見えてしまう。「見える」とこの「観る」は違う。だから景観は人それぞれみんな違う。

今回みなさんに宿題というか、次に僕が皆さんとお会いする日までカメラを渡して、大好きな景観や、あなたたちがここで言う、ちょっと変だなあと思った景観や、好きでも嫌いでもないんだけどもんだか気になる景観、というのを撮ってきてください。その写真で次の授業をします。皆さんの写真で僕が授業をします。聞きます、「これ撮ったのだれかな。」と。「どう思ったの。」と。どう思ったって、こっちを思ってもらわないと景観の授業にならないんです。

そうじゃないと写真集になります。観光写真集になります。そうじゃなくて、みんなどう考えたか、好きでも嫌いでもいいです、嫌いだっていいです。

こんなものもあります。ある人が「好きだ。」という景観を、ある人は「僕は大好きだ。」という人がいます。小さい頃に何か経験して、それがすごく自分の中で残っている人は、みんなが「いいなあ。」と思うことでも、「僕はそれを見たら悲しくなるんだ。」という人もいます。そんなもんです。

だから、みんな楽しんでください。他の人と同じ写真を撮らなくて結構です。他の人と同じ写真を撮っても、こっちの感想が全く違っていいです。答えはありません。みんなが習っている中学校の授業、例えば小学校の授業でもいいよ、 $9 \times 9 = 81$ です。それしかありません。景観というのは、同じ景色を見てAさんが美しいと思った、Bさんが悲しく思った、Cさんが楽しくなった。全部正解です。だから景観学習っておもしろいんです。

そういうことを最初にどうしても言いたかったんです。人によって違うよ。人と違うということを楽しんでください。それが「観る」ということなんです。

〇つばさ君の弘前たんけん（その1 ひまわり）

僕は、うちの子供に「つばさ」という名前をつけました。サッカーをやらせたかったんです。でも気が付いたらバスケの選手になってしまって全然だめだったんですけど、でもこのつばさ君と、彼が子供のころに、弘前のまち歩きをして、その写真を撮って文章を書いて、景観を楽しむということを、本を作りました。雑誌に載せました。その何回かの原稿をお見せします。



その第1回、ひまわりということになりました。弘前のまちを歩いていたら、ひまわりがいっぱい書

いてある壁を見つけたんです。とても上手なひまわりです。見てほしいのは、遠くになればなるほど小さいひまわりになっています。遠近法といいます。上手です。だから思わず僕は、うちの子供の後ろ姿を、自分で漫画を描いて切り貼りして、コラージュっていうんですけど、写真の上に自分の子供の、虫取りに行く子供の絵を描いてですね、貼りました。これを雑誌に載せました。だって、もしここに5、6、7という数字がなくて、この木がなくて、この部分だけでもし切ったら、本当に今にもひまわり畑に行くような感じがあります。

いったいここはどこか。5、6、7という数字見たらわかると思います。これは駐車場です。普通はここに車がただ並ぶ殺風景な風景なんですけど、それをこの駐車場の人が、「いいよ、描いてもいいよ。」と言って描かせて、ここにとても美しいひまわり畑が、まちの真ん中にできました。誰が描いたのか。

僕が皆さんに言いたいのは、普通これを見た時に「誰が描いたんだろう。」と思う気持ちを持つのが、まず最初のはてなです。調べなきゃいけない、見つけてきたり。

僕は調べました。近所の人に聞いてみました。「誰が描いたんですか。」と。落書きとは思えない。夜にいっぱい描いてしまっていたり。これは相当時間かけて描いています。わかりました。実はこの建物の向こう側には弘前第3中学校という中学校があるんですけど、みんなと同じ中学生の、美術部の子供たちが「卒業記念に描かせてくれ。」と言って、普通、卒業記念の絵とかは、建物の廊下とかホールとかに飾るんですけども、外の塀のこっち側に描かせてもらったんです。美術部の子供たちだから上手いです。

こういう風なものにいつも景観というのは、つまりこれは中学生がつくった景観です。ひまわり畑はないけれども、皆さんだって、まちにそういうアクセントをつけることができるんです。

○つばさ君の弘前たんけん（その2 へんしん!）

これはちょっと変わったやり方です。お寺のある弘前のまちで、お味噌と醤油を作っているお店です。周りの建物はほとんどが木造で、白い壁とこういうこげ茶色の板になっています。そのお味噌屋さんが、暑くてどうしても我慢出来なくて、クーラーを買ったんです。クーラーというのは、家の暖かい空気を外に出すために、外にこういう機械をつけます。せ

っかくこういう材料を使った、とても江戸時代みたいな雰囲気の家なのに、この機械はとっても恥ずかしいと言って、ここのおじさんは大工さんに頼んで、それを覆うためのこういう木の箱を作ってもらいました。

つまり景観というのは、じゃあここでクーラーを我慢するかというと、やっぱり暑いのは困るからクーラーをお店に入れなきゃいけない。そうするとここに非常に無機質な金属が出てくる。それはとても自分としてはやりたくないと思った人は、こうやって隠すわけです。本当はこの自動販売機をなんとかしたらいいと僕は思いますけど、こうやっちゃうわけです。こういうのが工夫です。これも景観に対して住んでいる人が考えた証拠です。



○つばさ君の弘前たんけん（その3 知ってるもん）

これはショッキングな話でした。このまちは自分達でルールを作りました。法律じゃないですよ、ルールでね。看板は上に出さない、文字で上に色々とホテルとかいっぱい書いてますけど、それを「書かないようにしようね。」と言ったにも関わらず、さっき言ったみたいに罰はありませんので、このゲームカラオケ屋さん、「ゲーム カラオケ」と書いてしまいました。止められませんでした。「ああ、できちゃったな。」と。ですから先生悲しかったので、その雑誌に、うちの子供にこうやって気球に乗せて、モップとブラシ持たせて消しに行くぞ、とちょっと怖かったけど書いてしまいました。弘前市役所の人に「先生、この会社やっている人、怖い人ですよ。」と、後で脅されたんですけど、まあいいやと思ってやっちゃいました。

でもね、世間から反響があったらしくて、消してくれました。それはすごいことです。怖いおじさんだったことは間違いないんですけど、消してくれました。でもそのおかげで、かどうかわかりませんが、このお店は潰れてしまったんですけど、こ

ういう風なものやってしまう人がね、「そうか。」って消していくというのも景観です。



○つばさ君の弘前たんけん(その4 トンネル大好き)

もうひとつ、弘前あたりに行くと、北上よりも雪が降ります。そうなってくるとアーケードみたいなものを作って、みんなその雪の中歩こうみたいな、こういう通路が結構まちにはいっぱいあります。トンネルみたいなものです。「トンネル大好き」として調べました。

実はこの建物がどういう風にしてできたかというのを皆さんにお見せしたいと思います。

実は弘前の隣の隣のまち、黒石というまちがあります。そこで「こみせ」というアーケードみたいなやつが、ぶわあっとまちに広がっています。

アーケードとちょっと違うのは、北上にもアーケードありますけど、アーケードと何が違うかという、家をくりぬいているんです。これ家の中なんです。家の敷地を歩いて行ける歩道なんです。それを「こみせ」といいます。こうなっています。雪がこんなに降ってもここを歩けます。道路ここまで、ここは高橋さんという人の家の前を通っています。高橋さんという人の家の前と、森さんという人の家の前が繋がっているから、歩道になっちゃいます。こうなっています。ここまでが車道。ここまでが歩道。これも地域の歴史的な景観です。

このまちは歩道を造りませんでした。車が走る道路だけ造って、歩道は人の家の中を通らせてもらいました。これが黒石の、つまり津軽という雪の多い所の景観です。これと同じ景観は新潟県に行くと見ることができます。

びっくりしたのは、この「こみせ」に窓ガラスを入れて暖かくしている場所があることです。こうやって歩いて行くと風も雪も入ってきません。誰がどう見たって人の家です。人の家の中の土間です。で

もこれが歩道なんです。歩かせてあげるんです。江戸時代からこれを250年続けてきているんです。これが地域の景観です。

この景観を大事にしようねといったって、僕らはいつまでも250年、300年、400年、500年とこの建物を残していくわけにはいきません。残したいのはね、寒い時に人を歩かせてあげるという考え方を、新しい建物をつくる人が考えればいいんです。

○新しいまちづくりに活かす

弘前では、これを新しくまちづくりに活かしました。ルール作りしました。新しく家を建てる時には、1階のこの部分だけ下げましょう。2、5m下げましょうと。つまりさっきの江戸時代のやつを再現するわけです。大きい家をつくる必要はありません。火事が危ないです。鉄筋コンクリートでいいから、さっきみたいに歩道はあるんだけど、こちを歩けるようにみんな下げましょうねとって、このまちづくりを7、8年前から始めています。

景観というのは古い地域の、この1階の部分だけ下げているということ、今新しくモダンに活かそうとってつくっている。これを計画でやりました。これをみんなやりましょうねとって守らなくても捕まりはしないですけど、でも一緒にみんな頑張っています。といってもさっきの黒石に比べると何となく中途半端に見えるかもしれません。

○「こみせ」に見えるかな？

これは美容院です。でも、これ自分の自動販売機を道路にはみだすんじゃなくて、自分の中に建てているわけです。これも美容院です。ベンチがあります。つまり中を歩けるように、ずっとつながっていると、傘がなくても商店街を歩けるわけです。

こういうとこだって作ってくれました。言われてみればそうです。

高そうな気がしますが、風なんかいっぱい来そうな気がしますが、これだって新しい景観を、さっきのをみんなヒントにして、1階だけ下げようねと。そうするとみんな雨宿りできますよとつくったんです。

ここもそうです。このマンションだって、このマンションがさっきの黒石の「こみせ」とは思えない。道を見てもらうと、2、5m下がっています。

ルールを守ってつくっていくと、気が付いたらま

ちの景観が変わります。だから先生はさっき景観は守るだけじゃなく、つくると言ったんです。これは守りながらつくっているわけです。

でっかいダイエーというデパートがあったんですけど、これは建物が壊れる前に出しました。でも次に出来た時は頑張りました。1階下げるためにいっぱい柱を建てて、こんな大きなビルでも1階部分を下げました。こういう風なことは、景観とはみんなで作っていくものだと思います。

・つばさ君の弘前たんけん(その5 どこでもドア)

最後、工夫の話をして、「どこでもドア」。弘前のまちの真ん中にお寺ばかり、33軒のお寺が集まっているまちがあります。そのお寺に入っていくと、なぜかその道路の真ん中に門があります。この下、バスも車もどんどん走んですけど、不思議なことに、黒門と言うんですけど、道路のど真ん中に門があるんです。



我々ここに入っていきます。僕は初めてこれを見た時にびっくりしました。僕は江戸時代みたいな気がする、水戸黄門が歩いているような気がするんです。だからどこでもドア。ここからぱっと入っていくと、江戸時代ですねと書いています。

ところがね、書いた後になんか気がかりになりました。これ通信柱です。もしこの通信柱がなければ、向こう側で水戸黄門のロケができるかもしれません。残念だなあ、この通信柱はと思いました。

このコラムを見て弘前市役所の都市計画課の人達が、北原にこれ以上言わせちゃいけないと言って、この通信柱を隠そうとしました。

皆さん、通信柱をどうやって隠すかわかりますか。お金が一番かかりますが最も確実な方法は、地面の下を電線通します。地下に埋めます。そうすると電気が下を通って行って家に中から入っていきますか

ら、電線も通信柱も全部消えます。しかしこのお金は莫大です。道路も掘り返しますし、東北電力さんもお金出さないといけません。東北電力さん、断りました。なぜこれだけのためにそんなお金を使わないといけないんだと言って、東北電力さん断りました。で、じゃあ我慢するのか。

でも彼らは頑張りました。今こうなっています。通信柱も電線もありません。しかし地面には埋めています。大事なことはその工夫です。

皆さんこれを見て、どういう風にして通信柱や電線をなくしたかわかるでしょうか。小学校の授業でもこれを聞きます。何人かはそんなもんかなと思うかもしれません。つまりないんです。でも、ある小学校に聞いたらおもしろい答えがありました。お寺がみんな電気を通らなくした。そんなことは無理です。お寺の人だって生活して冷蔵庫もあるから電気もほしい、お葬式ができなくなります。ある人はこう言いました。お墓の方に通信柱を立てたんじゃないか。裏の方です。そうやるといいかもしれません。お墓の真ん中に通信柱を立てていると変です。お寺が嫌と言います。



そうすると、もうこうなってくると答えがだんだん見えてくるわけです。どうでしょう、みんなならどうやって通信柱や電線を見えないようにしたかということ、埋めずにです。わかる人いますか。これはテストとは違うから、当たってもはずれても何もないですけど、もし自分だったらどうするか、もしわかる人がいたら手を挙げて下さい。どうでしょう。たぶんみんな気付いていると思います。黒岩小学校はみんな手を挙げたよ。みんなはちょっと恥ずかしいかな。運が悪かったと思ってあきらめてくれるかな。一番近い君にしよう。どうだと思ふ。

〈生徒〉「塀の中を通した。」

塀の中はね、さすがにお寺の人も嫌と言いました。

じゃあ隣りにしよう。どう思う。

〈生徒〉「木につけた。」

うん、そうだね。じゃあ見せますね。こうなってくると隠せるものは木しかないわけです。

だからこれを少しクローズアップして見せるところになります。電信柱を何本かに1本、杉の木の間を立てて、その鉄筋コンクリートを木の皮でごまかします。そうすると、こっちから見ると木が並んでいるように見えるけど、実は、よく見るとこうやって立っている。しかもこれを反対側から見れば、嫌な角度で撮ってあげるとこうなります。電線だってあるんです、横に。今彼が言ったみたいに、木の中に立てているから、こう見ると見えません。つまり、この杉の木がどんどん頑張っこの葉っぱをなくさなければ、人がこうやって歩いていても電線は見えません。隠してくれます。この木が枯れてくると、さっきみたいにもろに見えてしまいます。これ嫌な角度で、ばれるように写真を撮るとわかりますけど、みんなこのまちに来て車に乗って歩くときは、こっち見て歩くわけですから、横見てカニみたいに歩く人はいません。だからいいです、これで。

つまり、地下に埋めるようなすごいことをしなくても、何とかみんなで頑張っここに立てて、電線が見えないようにします。見えなくするという方法だっ大事な景観を守ることだと思ひます。しかもこの時にはお寺のお坊さんたちが協力しました。さっき言っけて、塀の中かなと言ひました。塀の中は困るけれども、実はこの敷地はね、この道路と歩道までは弘前市の土地です。この石からこっち側の木の立っている場所は実はお寺の敷地です。つまり自分の敷地の中に電信柱を立てることをみんな協力したわけです。自分のうちに電信柱を立てることは普通嫌です。「でもいいよ、みんなでやりましよう。」と、そうしないと無理だと言ひて、こういう景観を守って言ひて、なおかつ工夫して言ひていくことを、僕は少しみんなに考へてほしいと思ひます。

○ここでも工夫しているよ！

実は弘前のまちなかでも同じことをしたんですけど、今度は大変なんです。木が立っていません。これ弘前の土手町という所で、実は電信柱をなくしました。なくしたんですけど、もう木では隠せません。でも明らかに電信柱はありません。電線も見えていません。みんな考へます。僕は小学校で授業して『わかんなかったらまちに行ってきてごらん。わかるか

もしれない』と。

これみんな、後で見たらわかります、上にテント、みんなで屋根みたいなものをつけて、ここらへんが怪しいなと前から思っていたんですけど、決定打はわかんなくて、どう考へたっこのまちはここら辺に隠しているだろうと思へないんですけど、その証拠がなかったんですけど、僕は突然これを見つけて、すぐデジカメで撮りました。携帯で撮りました。まちを歩いて言ひてどこに電線隠しているんだろうとずっとまちを歩いていたら、証拠があったんです。さっきのこの部分です。さっきのある断面を見たら、しっかりと線が出ていました。隠してました。考へているんだなあと。でも怖いなあ、電線がむき出しになっこの部分を走っている。びっくりしました。でもこれも工夫です。ここはある年の景観大賞という賞をもらいました。工夫です。

何とか山が美しいとか、和賀のこの川が美しいとか、あの木は素晴らしい木だとか言ひその美しさと同時に、美しい美しくないじゃなくて、みんなで工夫して苦勞して、こんな風にして景観を自分達で考へた言ひて、その努力みたいなことも当然美しい景観です。景観はなにもきれいだと言ひだけが景観じゃなくて、よく頑張ったねとか、考へたじゃないというレベルから始まって言ひて、いろんな褒め方があるんです。この景観は美しくありません。言ひて所を少し作りながらも、さっきのまちの中から電線をなくした言ひてこのその努力はとてん大事です。木がなくなっ言ひて隠せます。でもね、一番楽なのは地面に埋めることです。楽にできる。でもそれは最後の最後です。言ひて風にして様々な人達が頭と知恵使いながら共同して景観を工夫して言ひてできる言ひてことを覚えてもらひたいと思ひます。



○景観人のススメ

景観は自分達で関わっていくものです。青森県ではそんな人々のことを「景観人」と呼んでいます。僕がつくった言葉です。でもこれを北上市ですすねやってくれましたけど、北上市で景観人の養成講座をやっています。

皆さんにも景観人の仲間入りをしてもらいたいです。気付く人になってほしい。見て、変だなあと思う人になってほしい。そのための授業を実は今度やるために、今から写真を撮ってもらうためのちょっとした、時間あとちょっともらって、どうやってカメラを撮っていくかという話をして今日は終わりにします。

○まち歩き of 極意

①答えは「場所」に必ずあります

まち歩き of 極意。答えは「場所」に必ずあります。写真撮ってきて『あ、これいらぬや』と思わぬでください。無駄な写真は一枚もありません。

例えばこの写真、ただ単にうちの学生が東京の墨田区という所を歩いている時に『やっぱり東京は庭が少ぬからああやって花壇じゃなくて家の前にいっぱい飾っているんですね』といて撮った写真です。それをひきのぼしてずっと見ていました。この写真はすごいと。こうやって線からはみ出さぬように一生懸命自分で飾っている人が、実は結構すごいことをやっている。電信柱をうまく使って花を飾っている。こういうのは本当はやっちゃいけぬんです。でもこの電信柱を勝手に使ってここにぶら下げてます。空間が少ぬいと頑張るんです。

こういうのに気付くと、これからどんどんまちを歩くとおもしろくなってきました。

これです。なんてことはない、窓際にぬいぐるみを置いている、と思うかもしれぬせん。



でもこの人は変わっています。皆さんは自分の窓際に、勉強机の脇の窓際にもし人形を置く時どう置くでしょう。自分の好きなキャラクターの人形を置く時、その子のおしりを見るように置くでしょうか。この人形は窓の外を向いています。自分はその後ろ姿ばかりを見るわけです。

もっとすごいのは、先生のうちのすぐ向かい側のこのうちです。今年正月に、三階建ての家ですごい家なんですけど、初日の出を撮ろうと思つて向こうから太陽があがってくるんですけど、それよりもこれに気付きました。これはいったい何だろう。ぬいぐるみが閉じ込められています。全部こっち側を向いています。向こうにいる人は一体なんでこんなものを飾っているんだろうと。これが変だなと思う気持ちに頭に浮かんでくると、景観はおもしろいと思つています。だって誰がどう考えたっておかしいです。普通こっち側向いて、自分の机の方に全部並べてお人形さんを並べるというのが普通の並べ方ですが、これは明らかにお店のショーウィンドと一緒に向こうにむけて、僕には助けてくれと言っているようにも思えるんですけど、こういうのもおもしろいです。

②シャッターを押す前に、結論を出してはいけぬせん

2つ目、シャッターを押す前に、結論を出してはいけぬせん。「これ大したことないな。」とか「こういう写真だったら誰か撮っているはずだな。」とか。いや、見てから考えましょう。「こんなの撮ったら、先生に笑われるかな。」、いいえ、どんな写真でもいいです。さっきの黒岩小学校ではうんち撮っているのもありました。笑われます。笑われますけど、その人が感じた写真を撮ってください。さっき言いました、同じものを見ても違ふんだ、景観は。「みんなも撮るから、いいか、撮らなくても。」という話はやめましょう。

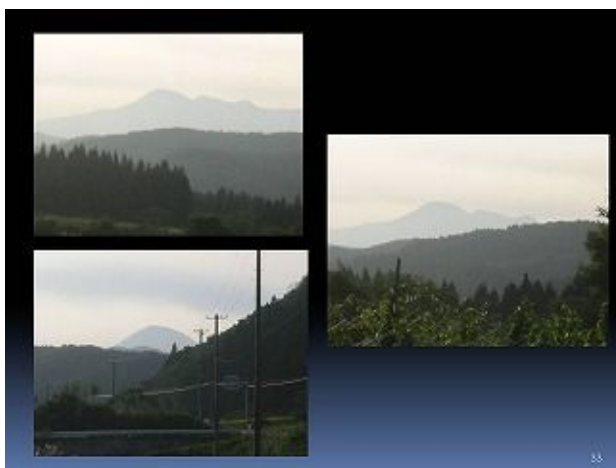
③撮るものがないことも、一つの結果になります

3番目、撮るものがないことも、一つの結果になります。これ大事なんです。みんなね、気持ちのいい写真を撮りたいと思つてカメラを持ってまち歩きをしたとしましょ。和賀の地域ではいっぱいあると思うんですけど、歩いた結果なかったと。先生から「絶対撮つてこい。宿題だ。」と言われたのに、撮れぬ。自分が大好きなもの撮りたいのに、大好きなものがない。そんなことは悲しまなくていいで

す。そして先生もそれは怒らなくていいです。その代わり僕は聞きます。「何撮りたかったの?」。「こういうの撮りたかったんです。でもこの地域になかったんです。」、なかったということも結果になります。それは空白で出してください。そして言ってください、授業の時に。「本当は僕はこういう景色、景観撮りたかったんだけど、3日間歩いたんだけど見つからなかった。」、その見つからなかったものが何かということ授業でしゃべってもらえば、写真は撮らなくても結構です。ないものを撮影することです。

④同じものを撮っても、意味の違う写真があります

4番目、同じものを撮っても意味の違う写真があります。みんなのピントがどこに合っているかです。



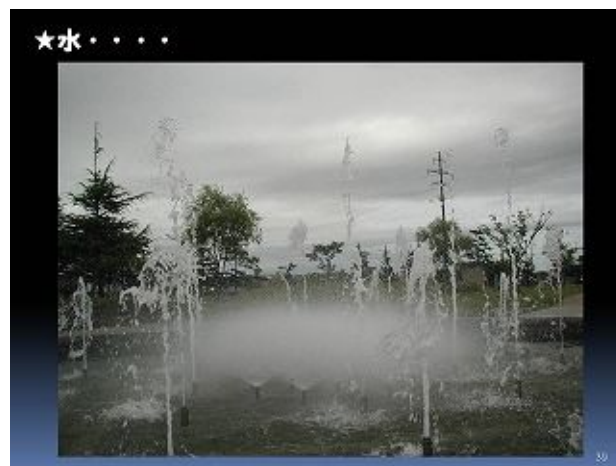
例えばこれは八戸の小学校でやったまち歩きの際の写真のいくつかです。みんな同じものをいろんな角度で撮っています。この写真ぼやけていますよね。「この写真なんで撮ったの?」と授業で聞いたら、こう言いました。「えっと、夕方撮った時にあの山がうっすら見えるんです。うっすら見えるあの山が美しいと思って撮りました。」

2枚目、同じ山がうっすら見えています。全然撮る構図は違います。このタイトルは何だったか。「太陽の光を反射する露のついた葉が撮りたかった。」、こっちが撮りたかったんです。でも朝撮ったものです。こちらは夕方撮っています。朝の太陽の光を浴びて、ここに夜露がのっている葉っぱがきれいに光っている、その脇にみんなが大好きな山があるんだけど、この子が撮りたかったのは山をバックにしてこっちです。この子が撮りたかったのは、うっすらとした山が撮りたかったんです。だから同じ所を撮っても構いません。友達に「おまえどこ撮ったんだ。」「そこ。」「じゃあやめるか。」じゃなくて、同じもの

同じ場所をみんな撮ってみてください。そして比べてみてください。その違いが楽しいんです。

これは山撮ったのかなと思って聞いてみたら、山の景色を台無しにする電信柱を撮りたかったと。聞いてみないとわかりません。そういうことをみんな自分でコメント考えてもらいます。

これもおもしろい。これは弘前の小学校4年生に撮ってもらった、地域の景観です。「噴水とマスカット」と書いていますけど、噴水を撮った子はいっぱいいたんですけど、その写真の中でいくつか見せません。これ「噴水とマスカット」というタイトルです。次の写真、「噴水と橋」と書いてあります。次の写真「水」でした。この写真すごいです。この写真は、この噴水のこの迫力を強調するために、たぶんこの女の子はこのへりまで行って、しかも「マスカット」が写らないよう、あっちに行って、そして水にびしょびしょになりながら撮っているはずなんです。この写真はプロの写真並みです。水のこの動きがこんなに上手に撮れるか。僕はその子に言いました「あなた、プロの写真家みたいだよ。頑張りなさい。」と。この写真撮れようがありません、大人は。でも、こうやって構図で「マスカット」とこういう風に見えて橋みたいに撮りたい人もいます。みんな気持ちが違います。この人はこうなわけです。だからみんな同じ噴水撮ってきても、その写真並べて、30人並べただけでもきっとおもしろい授業になります。同じことを撮る人もいますが、僕はこの写真忘れられません。すごいな、よく撮ったなど。これ見た時にここと同じ場所とは誰も思えないぐらい迫力があります。



だからみんな自分に自信を持って、撮りたいなど思ったものをすごい角度で撮ってください。今日の小学生も、めちゃくちゃ近い所で撮った子もいるし、遠くで撮った子もいるし、いろいろです。

⑤想像しながら撮ってみると、おもしろくなります

最後、想像しながら撮ってみると、おもしろくなります。どんなことか。もしそこにこれがなければどう見えるんだろうということを意識しながら撮ってもらってもいいです。それが美しいと思うんじゃない、撮って、僕の授業の時こう言ってください。「先生、これなかった方がもっといいと思う。」、それも大事な答えです。

もし自分が70歳のおばあちゃんだったらどう見えるんだろう。人の気持ちになって撮るといふ、そういうロールプレイングもあります。5歳の女の子が歩いているとしたら、見える目線が違います。70歳のおばあちゃんが歩いているとしたら、坂道はきつかったりします。歩みが遅くなります。そういう時に見える景色って、13歳の君達とは違うはず。試しに同じ13歳の気分で歩くだけじゃなくて、もしこれが日本に初めて来た外国人だったら、看板がよくわからないとかあります。

こんなものもあります。今日は晴れているけど、雨が降ったらどう見えるんだろう。こんなものもあります。夜だったらどうなるんだろう。夏はどうなるんだろう。みんな見ている風景が夏の風景が急に入ってくるんです。こんな風にして今の写真を撮るんだけど、夏のことを思い出したり。



今日すごく象徴的な写真が黒岩小学校の6年生、5年生にありました。桜の写真を撮っていました。それは枯れています、もちろん。何にも花もありません。しかしその子のコメントがすごくおもしろかったです。結局その子は4月が楽しみなんです。桜の木をなぜ撮ったか。早く4月にならないかな。4月になったら、きっとこれに桜の花が咲いてきれいになるのかな。その記憶は去年見ているからです。去年桜の木を見ているから春になるのを待っています。だから今桜の木を撮ってもきれいな景観じゃな

いかかもしれないけど、期待したい景観なんです、4月を。春を待ちたい景観なんです。

だから景観というのは、今見えているだけじゃない、さっき言ったでしょ、見たものをどう考えるか、見て何々するだから、この枯れた桜を見て、来年の4月が待ち遠しいと写真を撮ったんです。だからそのコメントを見ないと僕はみんなの写真の意味がわかりません。

だから次回、写真を撮ってくれたら何か書いておいてください。春が待ち遠しいでもなんでもいいです。それを見た時にみんなの撮ってきた写真を読ませてもらいます。宿題は、皆さんに最低好きな写真、嫌いな景観好きな景観、もし嫌いな景観がなければいいですよ、それから何となく気になる景観、なんだろう、不思議だな、好きでも嫌いでもないなら、おやっと思えるように、そんなものがあつたら、大体それぞれ1枚ぐらいずつ撮ってもらおうと助かります。好きな景観がいっぱいあつたらそれはそれで出してもらっていいです。

黒岩小学校の6年生の子で、1人で30枚撮られました。やめてくれというぐらい撮られました。それ見るだけでも大変でした。普通の学校でやると1人普通は4、5枚ですけど、その子は撮りすぎたんで大変でしたけど、でもそれはそれでおもしろかったです。みなさんも、僕が困っちゃうぐらい出してもらっても結構です。それをやってもらったら僕は弘前でみんなの写真とコメントを見て、解説して、みんなの写真を入れてきて最低1人1枚ずつ入れてきます。こういう授業しながらみんなに「これは誰かな。」と復習して、少しみんな撮ってきたものを楽しみたいと思います。そういう話がまずまちを大好きになって景観をみていく第一歩になります。

これから冬になります。冬の景色ってあんまりおもしろくないじゃない。冬の景色は冬の景色で春を期待したいし、冬は冬の独特の景色があるし、もしこういうのでおもしろくなつたら、また来年春とか夏でやってみればいいです。今日は、今回はこれから寒くなる時期にみんなにやってもらいます。そういう意味で季節的なハンディキャップはあるけど、1年間のうちの4分の1は冬なわけですから、それを毎日生活しているわけですから、その景色も楽しまないもったいないです。僕がへえと思うような写真を撮ってきてくれたらと思います。じゃあ僕の授業は今日はこれぐらいにしたいと思います。